

営農情報



令和4年産米の振り返りと令和5年にむけて

今年の稲作を振り返るには、各方面からの情報を収集している時期ですが、現状集まった管内の状況を速報としてとりまとめましたので、ご紹介します。

令和4年産米の生育概況

育苗期間は高温に経過し、酸欠による発芽障害・苗のヤケが散見されました。

移植期には強風日の頻度が高く、低温で経過し、活着の遅れによる初期分けつの停滞がみられました。5月下旬は高温で経過し一部で還元障害が見られましたが、初期に対応ができたことで被害程度は低くなりました。6月上旬は高温・寡雨の影響で藻の発生が多いほ場では分けつが抑制され、6月中下旬は高温多照で草丈が短く茎数は少なく、葉色は濃く推移しました。

また、生育は2日程度早まり、極早生・早生種の幼穂形成期も1〜2日早まりました。7月の気温は「平年並み」から「やや高く」なり、極早生・早生種の出穂期は2日程度早まりました。コシヒカリは8月中下旬の強風雨で倒伏し始め、9月上旬の強風と降雨で助長されました。成熟期は早生種で概ね「平年並み」、中晩生では「やや遅れ」となりました。

病害虫の発生状況

県病害虫防除所のいもち病調査(7月上旬)によると、発生状況は過去10年で最も多く、7月19日に注意報が発令され、防除(個別・共同)を実施していましたが、葉色が濃いほ場で穂いもち病(菌の増殖好適気温20〜28℃)の発生が各地で見られました。

令和5年産米にむけて

- 穂いもち病の発生が多かったことから、置き苗の早期処分の啓発を継続します。
- 藻発生による分けつ抑制が発生しているため、苗活着後の浅水管理の啓発を継続します。
- 高温で発生しやすい還元障害対策として、引き続き秋耕と還元干しの啓発を継続します。
- 近年、発生が増加しているスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)は、本田防除剤を散布した地区もあり、目立った被害は

なかったものの、引き続き冬季低速耕うん作業と本田防除剤を啓発します。

● ウンカ類は、高島市に設置した予察灯で例年より早い7月18日にトビイロウンカ1匹の飛来を確認しましたが、大きな被害には至りませんでした。

次年も、ウンカ類をはじめとした病害虫の発生情報・技術情報を県農産普及課をはじめとした関係機関と連携して発信し、適切な対応を行います。

【管内の個袋検査結果一覧表】

令和4年10月31日現在

品 種	1 等		2 等		3 等	
	令和4年産米	令和3年産米	令和4年産米	令和3年産米	令和4年産米	令和3年産米
ハナエチゼン(袋)	4,913	13,916	5,821	785	0	0
	45.8%	94.7%	54.2%	5.3%	0.0%	0.0%
みずかがみ	44,967	45,890	5,359	2,551	230	174
	88.9%	94.4%	10.6%	5.2%	0.5%	0.4%
コシヒカリ	63,402	100,923	70,435	23,666	2,212	1,355
	46.6%	80.1%	51.8%	18.8%	1.6%	1.1%
キヌヒカリ	7,721	21,684	31,998	15,568	3,712	609
	17.8%	57.3%	73.7%	41.1%	8.5%	1.6%
日本晴	7,822	11,193	3,708	4,051	390	552
	65.6%	70.9%	31.1%	25.6%	3.3%	3.5%
秋の詩	45,872	39,592	6,159	10,172	510	367
	87.3%	79.0%	11.7%	20.3%	1.0%	0.7%

(上段:袋数 下段:等級比率)